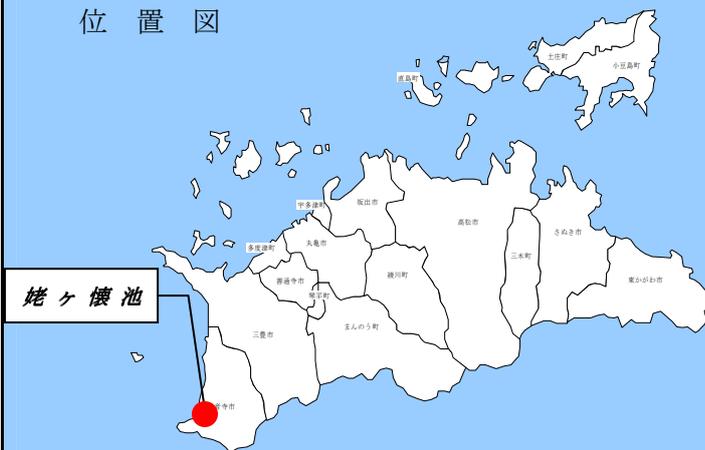


姥ヶ懐池（うばがふところいけ）

位置図



諸元

貯水量	201 千m ³
満水面積	7.6 ha
集水面積	349.8 ha
受益面積	151 ha
堤高	13.0 m
堤長	215.1 m

姥ヶ懐池は、天正年間（安土桃山時代：西暦 1573～1592）には大池と呼ばれ付近住民に利用されていたため池であり、大谷山から延びる台山（獅子ヶ鼻城があったとされる）山系の麓を塞いで築かれており、豊浜町和田にあるため池です。

「姥ヶ懐池」の由来は、西暦 1580 年頃、獅子ヶ鼻城が土佐の長曾我部元親の軍に攻められ落城し、このときの城主の幼い姫を抱いた姥が覚悟をし、満々と水を湛えたこの池に身を投じ、村人は姫を敵の手にかけさせなかった姥の勇気を称えたものであると伝わっております。

ため池の戦前の改修履歴については不明ですが、老朽化による決壊の復旧工事（S27 年）、老朽ため池整備事業（S29 年～S32 年及びS46 年）、さらには、国営農地防災事業（H17 年～H19 年全面改修）に取り組み、現在に至っています。

また、香川用水東西分水工から西部幹線水路を経て、姥ヶ懐池まで配水されている「香川用水」は、土地改良区が整備した支線水路へと繋がり、豊浜町和田の梨やレタス、ブロッコリー栽培などの地域農業発展の大きな原動力となっています。このように、「姥ヶ懐池」は地域の貴重な用水源であると同時に、「香川用水」の調整池としての機能・役割を併せもつ重要な土地改良財産でもあります。



姥ヶ懐池



記念碑